

醫業家譜



×

i III

富士文化文庫

×

490.28

Ig

Z

二

490.28
I

No. 2274
121 111



富士川文庫

251

醫業家譜笈卷二

目錄

富士川家藏本

七百石

三百俵

五百石二十人扶持

二百俵

三百俵

二百俵

二百廿五俵

二十人扶持

吉田意忠法印

吉田長禎法眼

吉田策菴

吉田快菴

吉田自琢

吉田貞煩

吉田不榮

吉田秀作

宗豊

宗質

正言



二百石

二百俵

二百俵

百俵十人扶持

六百石

五百石

二百俵

三百俵十人扶持

三百六十俵

三百俵

三百俵十人扶持

吉田梅菴法眼

吉田元瑞

吉田元卓

吉益玄周

谷部恭菴

改較

木村三圭

木村玄長法眼

木下道圓

依倉永仲

依藤慶南法眼

高木元濟正幸

三百五十俵

三百俵十人扶持

三百俵十人扶持

三百俵

七十人扶持

二百俵

二百四十俵

百六十石

百俵

二百俵

喜多村安貞

直方

東 宗朔胤長

長嶺元説

井上玄徹

玄方

井上三菴

井上玄丹

孝甫

土岐玄岷

土岐宗意

元安

藤林道壽

惟親

藤本玄安

其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり
其時より感善一申す一皆一たゞる一なり

大蔵の朝侍醫と云ふは

大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは
大蔵の朝侍醫と云ふは

高三百俵

吉田長禎法眼

吉田長禎法眼

吉田長禎法眼の次男と云ふ由を居宗成と云ふ事
又其の考へたる如く寛文三年西暦一七六三年に於て
七 郎 一 郎 法眼と云ふ事

長有との指元一と云ふ一末一而を新一様ありと云ふ事

此際所記と云ふ事一〇四年長成十一と云ふ事

一〇四年長成十一と云ふ事

寛文十三年癸卯七月一日に於て

長有との指元一と云ふ事一〇四年長成十一と云ふ事

此の事は御書に於て少き法眼と云ふ事ありと云ふ事

吉田家系圖

佐々木源三秀義六郎

〇〇 岩秀 吉田六郎

春秀 吉田六郎左門

秀信 六郎左門

長秀 三郎

秀時 信濃守

秀貞 駿河守

秀氏 三郎左門

秀綱 太郎

宗綱 左門尉

秀春 四郎左門尉

德春 仁菴 法印

宗林

宗忠

吾浴湯業齋爲
美満御侍齋 應仁三年八月廿六日卒

天文二年癸巳三月十日死 八十五

淨林

宗桂

元龜三年三月十日卒

典菴
等玄

榮可 男 女子二十四人

幼也

周三

友俊

光好

角倉與七郎子以
母中村氏
慶長十九年甲子七月廿日元年六十一

長因

大膳亮宮内卿次郎
元和九年癸亥六月廿日死六十二

玄之

角倉與一系菴

宗物

吉田意安

保菴

女子二人

宗皓

意安如見法印

宗恪

意安法印仙德院
母芝山監物女

女子二人

宗成

長菴

長禎法眼祖

宗立

開高菴
金地院任職

女子

宗陳

傳菴

女子

女子

岡甫菴法眼壽元專

素元

隆菴
松平大膳大夫醫師

宗治

意安法印

女子

岡甫菴法眼壽益專

女子

數原清菴高盤專

宗怡

兵部卿 依和惣領除
母古川主水女

宗恠

捨吉 岡甫菴 改吉田号 意安法印
母同 始為岡大菴壽信養長子嘉保四年己亥七月廿八日庚寅實家
吉田相續賜七百石号 意安法印

七年一西平北平一ホリは徳の命せし九年始此れのせらるハ
ホリも是れ北平を去りてホリも自死せりてあれせりて
七年一西平 一西平

徳和君よ西平を去りて北平を去りて徳和七年一西平一ホリは徳

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

徳和君よ西平を去りて北平を去りて徳和七年一西平一ホリは徳

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平一西平

徳和君よ西平を去りて北平を去りて徳和七年一西平一ホリは徳

高三自儀

吉田快菴

吉田快菴の自儀と号し一洛陽の書生也世に名を知らるる

名を知らるる

大徳の北平を去りて北平を去りて徳和七年一西平一ホリは徳

大徳
降友之
平慶
其心
上圖
口
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

高三百俵

吉田自琢 記

自家
らん
左部
元保
彰親
口

毎世に幾ら老まれば甲子候我まで此の例に多ありと
於一木より折れて身如傷の身は折らぬ此れ如
う身にて病を癒れて瘡ぬれぬとて其武は瘡瘻を
為す一瘡葉遠くしてかゝる其事も亦何物に
ても一木に折れぬ瘡に過す也若し此れ数年
数にても一木に折れぬ瘡に過す也若し此れ
少くても一木に折れぬ瘡に過す也若し此れ
瘡に過す也若し此れ一木に折れぬ瘡に過す也
一木に折れぬ瘡に過す也若し此れ一木に
折れぬ瘡に過す也若し此れ一木に折れぬ瘡に
過す也若し此れ一木に折れぬ瘡に過す也

寛政十三年の事

文昭の預入一と云ふ月七年一喜々として又白
紙の預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の
預入一と云ふ月七年一喜々として又白紙の

高二百俵

吉田貞順

吉田宗室之名聲はかくも一々秘七年甲戌十一月
 柳屋よ先して勲功の功を以て心成りて一日の
 ことなるるを以て心成りて一日の
 常言のよ消えりて心成りて一日の
 年作の心成りて心成りて一日の
 矣言れりて心成りて心成りて一日の
 文成りて心成りて心成りて一日の
 連作して心成りて心成りて一日の

南丁の二つ目と卯七

高二百二十五俵

吉田不榮

其の元を列して出して梅井北松平内膳信定より成りて
 松平長八郎一太夫といふ所の代名成りて心成りて一日の
 帝一知年一の心成りて心成りて一日の
 豊一上田一の心成りて心成りて一日の
 本形一上田一の心成りて心成りて一日の
 此方成りて心成りて心成りて一日の
 一上田一の心成りて心成りて一日の
 一上田一の心成りて心成りて一日の

文部省に於て此の如くは年俸二百金と物とを定めしむるを以て
 日七十年卒令たりしは、心算も亦さるるれ令を二百金
 として給ふ保四年とすたりしは、心算も亦さるるれ令を二百金
 法君光壽院明養傳通とし、心算も亦さるるれ令を二百金
 として給ふ又心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 り是れよしとして世に心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ

西園吉川丁

高二十人扶持

吉田秀作

高
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ

西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ

一番町

高二百俵

吉田梅菴法眼

西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ
 西園吉川丁にて居りしは、心算も亦さるるれ令を二百金として給ふ

醫部之旨出されし一令録に云々云々云々
西申七廿月

有徳之れ 旨之れを存心 心之れをさすれ

長福之れは附屬一 志之れに由るに由りて法勝の教を

宣し修名年 申長下 ありしに由りて善國にすし

善國の法名を梅體院春杏口終と号しすは源平の

源平源氏平より由りてありしに由りて法勝十士と

しありし梅香子ありしに由りて善國の法勝の法名

宗仲師美とすしありしに由りて善國の法勝の法名

宗仲師美とすしありしに由りて善國の法勝の法名

梅香とすしありしに由りて善國の法勝の法名

卯物又梅香の法勝とすしありしに由りて善國の法勝

の法勝とすしありしに由りて善國の法勝の法名

又梅風の法勝とすしありしに由りて善國の法勝の法名

法勝とすしありしに由りて善國の法勝の法名

高二百俵
高二百俵

吉田元瑞
吉田元卓

吉田元瑞元年とすしありしに由りて善國の法勝の法名

とすしありしに由りて善國の法勝の法名

とすしありしに由りて善國の法勝の法名

地...
...

有徳...
...

...

...

寛懐...
...

...

...

...

...

...

高百依十人扶持

吉益玄周

其先...
...

...

...

...

...

...

...

...

又奥前より高田中平に於て其の事

常意之 市地界より修して口平下り申すに、此れより後、

名群として、山形信託と云ふこと、其の信託する年、

徳治一と云ふ年、と申すに、其の母と云ふこと、

山向政成所、高田中平より、其の信託する年、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

文昭の子、信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

高六百石

谷部泰安 政転

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

其の信託する年、と申すに、其の母と云ふこと、

此後入るは村部... 宗部... の張列...
そのは村部... 宗部... 知年... 群... 宗...
... 宗... と...
... 宗... と...
... 宗... と...
... 宗... と...

常... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...

宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...
... 宗... の... 宗... の...

徳意とありし由事醫部よりしるし天保元年辛未に高橋一
子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし又徳意に
ありし由事一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし
連綿たりし

元々金少の所

高二百俵

木村玄長法眼廼虎

先般木村春吉運ハ木村揚使法和屋中北屋よりしるし
元花梅と目ありし由事一子より木村三達ハ天保元年辛未に
法又三達よりしるし一子より木村三達ハ天保元年辛未に
甲戌十一年十月ありし由事一子より木村三達ハ天保元年辛未に

常言とありし由事一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし

年々より余よりしるし一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし
元禄十三年辛未長年よりしるし又春吉運ハ天保元年辛未に長年もてしるし
物よりしるし一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし
らり又此名春吉運と改む物ありし由事一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし
連綿たりし

高二百俵二十人扶持

木下道圓

此の由事一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし

木下道圓よりしるし一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし
大猷之北法代よりしるし一子より木村三達ハ天保元年辛未に長年もてしるし

〜〜〜〜

常書の指入〜〜と微業と致して早く年終りす可成

法成れのせり少藤師元口ゆりし出仕す〜〜年終りす元

口ゆり〜口ゆり年終りし十月の部の致し〜〜され侍置

擇れ年終りす法とゆりて法成の致せられ〜〜宗承

口ゆり〜口ゆり 法成界の信て口ゆりす〜口ゆり

法成に列〜口ゆり年終りし〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

法成〜無遠院法成徳律宗承〜口ゆり〜口ゆり

〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

春名宗順〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

法成〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり〜口ゆり

題三相本

高三百俵

佐藤慶南法眼文信

佐藤家八代園中にて有るは基綱十代は孫佐友隆は
 別信の事書るるに車輪と云て終て中身は他佐友隆の
 針醫に盡く願う精養と願ふに事書るに於て是れ
 妙書に下てて致す也と信じて居るに事書るに於て是れ
 於願ひる人々の成列は事列書るに事書るに於て是れ
 事り計ぬと成すに事りて事りて事りて事りて事りて
 上及び大書るに事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて

事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて

事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて
 事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて事りて

足らぬ言申の尚書御出の別ありては物
と云ふはつらう方程元年事なれはし
と云ふはつらう方程元年事なれはし

昔書に於期は先して此の如く可成と物なれは法勝の御書

白雲元年甲子に書し月廿二日の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

因りては此の御書にて又

可成元年甲子に書し月廿二日の御書にて又

高三百俵二十人扶持

高木元洪 二筆

神田由殿北山醫學師より言はれ侍奉三百年と云ふ

延宝九年庚申秋九月 高橋宗朝

神田由殿より言はれ侍奉三百年と云ふ

少外信可傳天和元年辛酉十二月廿七日

地味より言はれ侍奉三百年と云ふ

大正十一年一月廿七日

常言より言はれ侍奉三百年と云ふ

中身より言はれ侍奉三百年と云ふ

高三百俵三十人扶持 東 宗朝 胤辰

素二書可

昔元平時より千葉并常胤より言はれ侍奉三百年

中身より言はれ侍奉三百年

東 宗朝より言はれ侍奉三百年

中身より言はれ侍奉三百年

常言より言はれ侍奉三百年

右徳より言はれ侍奉三百年

中身より言はれ侍奉三百年

中身より言はれ侍奉三百年

中身より言はれ侍奉三百年

中身より言はれ侍奉三百年

常言より言はれ侍奉三百年

長壽延命といふは徳田平一申すに又及心り
亦世之百信中人其心と世も善信也と云ふこと
しん今れを後と云ふなり

幸徳西門外

高之百儀

井之玄徽 其方

井之玄徽ハ古國信長よりして古名多良地なるに由り
井之玄徽ハ慶長と云ふ如きよりして今迄
及らつて今ノ業志一ひと云ふに只類信長たり
井之玄徽ハ早もて其後と云得信長と云ふ事なり
と云ふは其の事なり

十一 中 免て

大蔵より百のれ侍醫よりして一也其の病を
治するに云ふ又元年三月七 徳田市郎之所屬也
別々日付を千人持りてしるはるに古名と云ふ
也其の玄快と云ふれ 所屬也其の玄快と云ふ
之年を言れ申すは之の玄徽と云ふ信長信長
寺より其の法名と云ふ春院法名書也又玄徽と云
りて其の玄快と云ふハ明徳元年丁未十一月廿七日
也其の玄快と云ふハ其の玄快と云ふハ其の玄快
徳田市郎之所屬也其の玄快と云ふハ其の玄快

高二百俵

井上玄丹 孝甫

玄丹の如く原姓よりして井上と云根毎を以て以て
大井と云根毎ハ原及此名奉りて
振田と云根毎よりして年付二百俵と知る甲辰此
年よりしてこれより言ふ年よりして
此の如くも原よりして年付二百俵と知る甲辰此
年よりしてこれより言ふ年よりして

井上玄丹の如く原姓よりして井上と云根毎を以て以て

大井と云根毎ハ原及此名奉りて

振田と云根毎よりして年付二百俵と知る甲辰此

年よりしてこれより言ふ年よりして

此の如くも原よりして年付二百俵と知る甲辰此

年よりしてこれより言ふ年よりして

大井と云根毎ハ原及此名奉りて

振田と云根毎よりして年付二百俵と知る甲辰此

年よりしてこれより言ふ年よりして

此の如くも原よりして年付二百俵と知る甲辰此

年よりしてこれより言ふ年よりして

大井と云根毎ハ原及此名奉りて

源氏

井上家系圖

紋井筒 雪根笹

井上玄瑞

元瑞

玄長

玄丹

玄丹

始玄之月
母依竹右京大夫河津忠助女
家中

女子

中川常春院

妻

隆玄
女子

女子

岡田平三郎

妻

葛山政吉

葛山松之助

女子三人

伊達本覚

伊達本立養子

女子

高二百四十俵

本所所領也

土岐玄岷

土岐市ハ遠無居申揚津也所領光此後子一と云
此國地所蔵土岐人因多事末院とて中具土岐
重光とて其國名と云事一と云此れ一と云一と云
二年一と云

大猷

大猷之朝之云也此れ其國所領とて一と云一と云
年一と云一と云一と云一と云一と云一と云一と云
一と云一と云一と云一と云一と云一と云一と云
一と云一と云一と云一と云一と云一と云一と云
一と云一と云一と云一と云一と云一と云一と云

止海と稱して... 格居と... 延富... 元禄十三年... 徳山伯勉... 寛文... 享保... 天明... 高百六十石

高百六十石... 元禄十三年... 天明... 寛文... 享保... 天明... 高百六十石

高百六十石
土岐宗意 元安

古の徳を慕はるるかたは古國を懐くとして
徳を慕はるるかたは古國を懐くとして
徳を慕はるるかたは古國を懐くとして
徳を慕はるるかたは古國を懐くとして

大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す

常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す
常意より百のれを記す此書園と記す

高百俵

藤林道壽 惟親

大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す

大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す
大猷より百のれを記す此書園と記す

大徳の... 物に... 又... 年... 信... 物...
 宣... 年... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...

有徳... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...

高二百俵

藤本立安

江戸中野

宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...

有徳... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...
 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...

五

五

ちりて父及他は建徳の百信とす緒々として三山を事
 してつらて地土年々平よき事ありてつらて三山に口を
 してつらて事ありて建徳の百信とす緒々として三山を事
 してつらて事ありて建徳の百信とす緒々として三山を事

建徳の百信とす緒々として三山を事
 してつらて事ありて建徳の百信とす緒々として三山を事
 してつらて事ありて建徳の百信とす緒々として三山を事
 してつらて事ありて建徳の百信とす緒々として三山を事
 してつらて事ありて建徳の百信とす緒々として三山を事

